



「特集」

技

リフォームで開放的な空間の演出 ～木材置き場がショールームを兼ねた事務所へ～

顧客の増加と作業スペースの縮小

富山県射水市、旧国道8号線沿いに「カーセンターハシバ」が営業を開始したのは、昭和53年のことである。新車・中古車販売から車検・整備・钣金・塗装・保険などを手がけ、地域の「クルマ屋さん」として発展してきた。

平成13年に隣接する木材置き場が空きテナントになったことを機に、その土地と建物を購入。中古車の室内展示場として活用してきた。その大きさは現在でも北陸最大級の規模を誇り、展示車が増えると同時にお客様も増えていった。しかし、一方で事務作業や商談をするスペースは次第に手狭となった。

「お客様との商談が重なるとお待ちいただくこともあり、満足できるサービスを提供できないこともありました。また、以前の事務所は少し閉鎖的な雰囲気があり、ショールームのように広くて開放的な場所が欲しいと思っていました。」と橋場さん。



上:大きなガラスで張りめぐらされたショールーム
左:旧事務所の外観



検討を重ねた結果、

室内展示場の一部をリフォームし、事務所・商談スペース、そしてショールームを兼ねた空間へ変えることに決まった。

構造上の問題

「開放的な空間」を演出するために考えられた構想は、

- ① ショールームと商談スペース部分は吹き抜けとする。
 - ② 正面に大きなガラスを張りめぐらし見晴らしを良くする。
 - ③ 建物の高さを有効利用して二階を増設し、ここに従業員の休憩室や会議室をつくる。
- このようにした。

ただ、もともと木材置き場だった建物は、天井が高く、二階のない体育館のような造りになっており、二階の増設に耐えられる強度はない。そこで、鉄骨の中にもう一つ鉄骨の枠組みを入れるという方法が取られた。

「高い耐震性が求められる大きな建築物の補強では頻繁に採用される方法です。梁が二重になっていくところもあって、強度には問題ありません。」と技術者。二重の鉄骨で安心して作業できる強度となった。

明るい日差しが入るショールーム内



リフォーム前の室内展示場

ガラスの大きさとサッシの選択

より開放感を出すため、ガラスは出来る限り大きなものを使用することになった。問題は、ガラスを受けるサッシの選択だ。強度の弱いサッシではガラスが安定せず割れてしまう。一枚当たり300kgの重量と、ガラスの受ける風圧を考慮して、サッシは慎重に選択された。

「窓が大きくなって、事務所が明るくなりました。」と従業員の方から評判の良い出来となった背景には、技術者の様々な苦労があった。

車は自動ドアから搬入

建物に車を入れるには、車の出入りできる間口が必要だ。どのショールームにも、たいていは建物の奥の目立たない所に扉がついている。ところが、今回のリフォームでは、お客様が直接出入りする自動ドアから車を出し入れすることになった。適切な場所が限られていたためである。

「構造上、正面横の壁か、お客様が出入りする自動ドアしか間口を取れませんでした。『いかにも』から出し入れしている、と分かる造りは避けたい。」と、ご要望でしたので、業者から聞いた直角に開く自動ドアを使用しました。」と担当者。全開すると幅は4m程になる。ショールームには最大3台の車を収容でき、3台目を収容するにはこのくらいの幅が必要になる。

山県内各地から車を見に来られるようになったカーセンターハシバ。今度も、開放的なショールームと特選車でお客様をお待ちしている。(技ネット)



全開した状態



閉じた状態の自動ドア

今月のオーナー訪問



株式会社カーセンターハシバ
常務取締役 橋場 真一郎さん

希望通りです。

天井が高く、ガラス張りになって、とても開放的になりました。希望通りの仕上がりになっています。従業員一同とても喜んでいきます。少しずつですが、知名度も上がってきました。リフォームをして良かったと思います。

また、当社では毎週お勧めの車をご用意して、皆様のご来店をお待ちしております。特選車の内容は、TV・ラジオやホームページをご参照ください。www.chc-hashiba.com

チャイルドルームもごさいますので、お気軽にお越しくださいませ。



技のリフォーム

イワザ ミセマス
0120-183-304